

## 第14回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成30年10月10日（水） 10：00～12：15	場 所	東海村役場 行政棟5階 災害対策本部室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，久賀委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，川崎（道）委員，鈴木（千）委員 事務局／企画総務部 企画経営課 佐藤課長，石井課長補佐，松崎係長，照沼主事 建設部 都市整備課 河西課長，高橋課長補佐，浅野主任 欠 席／荒木田委員，鈴木（さ）委員，  (◎：委員長，○：副委員長)		

### ○当日の活動・協議内容

#### 1 開会（企画経営課佐藤課長）

#### 2 小原委員長あいさつ

2点お話しさせていただきたい。新知事が誕生し、茨城県でもこれまでとは異なる政策が打ち出されています。従来の、県内平等に振興を図る政策に対し、新知事は伸ばせるところから伸ばす考えです。すでに公表もされていますが、大洗・ひたちなかエリアにおいて（仮称）リゾート構想が進むこととなっており、私がこの四半期から座長を務めていますが、本会議の追い風になると嬉しく感じます。構想の中心は大洗と那珂湊ですが、村松地区も含まれます。詳細は未定ですが、本委員会の委員長としては、できる限り村松地区も入れ込みたいと思います。これまでは東海村の中の村松でしたが、リゾートエリア、観光振興エリアの中心として村松地区が入っていれば、大洗やひたちなかにはない魅力を打ち出し、こちらへ足を運んでもらうことにつながるかと思います。

2点目は、先日、再活性化を進めている熱海市へ先進地視察に行ってきました。お金をかけた建物のリノベーションはもちろん、もともと観光地であったため、地元や観光客が休めるようなフリースペースがあちこちにあります。昔風の観光所とは感じさせない、レトロモダンな、ゆっくりと歩けるようなものを感じました。最近流行りのコー・ワーキングスペースも用意され、熱海市で働きたい人や外部から来てお店を継ぎたい・新しい小さなビジネスをやりたい人に対してオープンになっていました。新しい風を感じました。その点に関して、事務局から、（村松地区内に）空きスペースもあると聞いていますので、持続的な村松の絵を入れ込むことも可能だと感じています。

長丁場の委員会となっていますが、いよいよ終盤に差し掛かっていますので、引き続きよろしくをお願いします。

#### 3 議事

##### （1）エリア別パース図について ※照沼主事より資料1について説明

- サウンディング調査とパース図が結びつかない。長い目標になればなるほど、商売にならずとも、にぎわいが生まれるだけで目的が達成されるものもあるだろう。私たちの提案をサウンディング調査でふるいにかけることに違和感がある。（坪委員）
- ➔ サウンディング調査は民地を含めた土地の活用について、民間の視点では何ができるか可能性を探るものだ。仮に、良い提案がなくとも、本計画を否定するものではない。（佐藤課長）
- ➔ よく分かるが、村松地区の関係者などは（サウンディング調査の）範囲外とおっしゃった。住民が提案する場合もある。ステークホルダーなどの意見を聞くのも魅力的で、そちらがメインで活性化が成り立つと考えていた。本来は、関係者がステップを踏んだ方が効果的だろう（坪委員）

- ➔ 計画を作って終わりではない。今後の進め方の一つの手法として民間活力の活用が必要だと考えている。仮に、サウンディング調査の結果、可能性が低いという結果が出たとしても、その部分は削ろうという話にはならない。(佐藤課長)
- ➔ サウンディング調査が委員会の中でどう位置づけられるか全体像が見えづらい。(小原委員長)
- ➔ 本素案(資料2)が計画になると考えていただく。それに加えて、サウンディング調査の結果をプラスしていくイメージだ。(佐藤課長)
- スケジュール感を示してもらうことで、私たちの役割も整理できると考えている。パース図を盛り込む先はどこなのか。4月以降、サウンディング調査が終わるまで計画は成り立たないのか。何を・誰が・どこまでやって、終わりはどこなのかをばらばらだ。以前の中間報告がどこにいったかもわからない。素案の策定がいつまでなのか。また、残り3回でやることをばらばらにせず、統一して示してもらえないか。(安尾委員)
- ➔ 計画の策定完了については、サウンディング調査終了後だと考えている。ただ、これまでの委員会で議論は尽くしてきた。この後説明する、エリア別方向性や課題の整理は今年度中に固める予定だ。これ(計画素案)を元にサウンディング調査を行った結果、大きなハード整備が入るのであれば、それを計画に追加する。事務局としては、来年度の委員会の開催頻度についても少なくなると考えている。(照沼主事)
- ➔ つまり、2019年3月末までに計画(案)を策定し、2020年3月末までに計画「(案)」がとれる。本委員会は、それまで続くイメージか。(安尾委員)
- ➔ そうだ。(照沼主事)
- ➔ 計画を実現するためのアクションプランが必要であろうし、庁内協議のスケジュールもあったかと思う。結局どこが終わりなのか。当然、ステークホルダーと話した結果、変わるものもあるだろう。サウンディング調査の結果が思わしくなかった場合、その1年間反映するもの(取組み)がゼロとなる。本当にそれでいいのか。できることから取り組む考えもある。(安尾委員)
- ➔ 少なくとも、4月までにかなり整理が必要だ。本委員会に関して様々なものが同時進行している。ご指摘いただいたスケジュール感と全体の位置づけなどをお示ししたい。(小原委員長)
- ➔ サウンディング調査まで何もしないわけではない。将来デザイン(パース図)を一般の人が見たときに、村松地区をどういう地区にしたいかイメージできるものを作る。計画に盛り込むものはサウンディング調査を実施してみないとわからないだろう。(佐藤課長)
- ➔ 委員長が仰ったように、3月までにまとめることが大切だ。できることからやるということを来年は切り分けてはどうか。デリケートな問題もあるが、一旦、みんなが議論したものを形にし、その代わり課題を示す。課題を解決するために、どうするか関係者にとってもクリアになるだろう。(坪委員)
- ➔ 私はこれまでの議論を報告書としてまとめ、その後、サウンディング調査にかけるかと理解していた。どこかでけじめをつける必要があるのではないか。(川崎道委員)
- ➔ おそらく、委員会の中でサウンディング調査の位置づけと、どういうメリットを生み出すために行うのか、共通理解を得ていないかと思う。本計画にサウンディング調査がどう影響するのか、いつぐらいまで行われるのか、お示しした方がいい。(小原委員長)
- ➔ 次回、来年の動きも含めてスケジュールを整理したい。ただ、繰り返しになるが、今年度中に計画(案)として、内容はほぼ確定させたい。サウンディング調査の結果は未知数だ。本委員会を解散した場合、サウンディング調査の結果はどうするのかという問題があるが、やはり、ここはフィードバックを行いたいと考えている。(佐藤課長)
- サウンディング調査の期間はどのぐらいになる見込みか。提案を選定し、吟味し、私たちのと

ころへ返ってくるのはどのぐらいか。(小原委員長)

- 正式に委員会へお返しするまでに半年ぐらいは必要かと思う。(松崎係長)
- 全体のイメージが変化してしまう恐れはないか。(小原委員長)
- それを防ぐために将来デザイン(パース図)を作りたい。みなさんが思い描いた将来像を(第三者とも)共有する意味合いがある。サウンディング調査には条件を付与することもできる。例えば、「阿漕ヶ浦公園においては、スポーツ系の提案をお願いする」といった具合に、事務局でコントロールできるようにしたい。(照沼主事)
- サウンディング調査には、一定条件を示す必要があると思うが、そこが曖昧だと感じる。JAEAとの協議も済んでいないのに、サウンディング調査を行い、既成事実としていいのか。(井坂副委員長)
- サウンディング調査は魔法の手法ではないので、ソフト面を含め、サウンディング調査を行えばうまく進むものではない。サウンディング調査をかける必要があるのは、村も本委員会としても言及できない、ハード整備の部分だ。逆に言えば、それ以外の部分は委員会で方向性を決められる。仰るとおり、計画に盛り込むべきソフト面は進める必要がある。(松崎係長)
- 「村としては、この土地でこういうコンセプトで将来を描きたいが、ご提案はあるか」というのがサウンディング調査だ。そこをあまりに限定してしまうと、民間からの提案が出にくくなってしまうので、あまり制約を設けない方がいいと聞いている。(佐藤課長)
- 村の主体性が欠けているので、違和感がある。(井坂副委員長)
- パース図にはご議論いただいた将来像が描かれる予定だ。その中で、民地やJAEAの土地はどうするかということについても、資料2計画(素案)である程度踏み込んでいる。そこも、可能性を探るという意味でサウンディング調査をかける。もちろん、JAEAとしての意向もあるだろう。(佐藤課長)
- そこについて事前協議はしないのか。(井坂副委員長)
- 日頃から(村とJAEAで)情報共有はしている。(佐藤課長)
- JAEAでも、村とも情報共有をしつつ、検討を進めている。その中で、「実現へ向けてできることを考えよう」というところまで来ている。一度、本計画素案を委員会として集約し、委員会からの意見が示されると、JAEAとしても、働きかけをしやすい。実現はどうかというのは、次の段階だ。(藤田委員)
- 万が一、民間企業からJAEAの土地を活用したいという提案が出てきたら、それが私たちの提案にもつながる。井坂副委員長の意見としてはサウンディング調査を行う前に、土地が使えるかどうか詰めた方がいいということだろう。(小原委員長)
- そういう意味では全く拒否するわけではない。調整に向けた努力も検討している。(藤田委員)
- サウンディング調査は田畑に提案を受けることができるのか。国道245号拡幅など、ある程度限定されるのではないか。(川崎敏委員)
- そこについては、エリアを限定できないかと考えている。資料2、計画素案の6頁の地図のようなエリアで、民地を含めた地区全体で提案を募集する。(松崎係長)
- 阿漕ヶ浦公園周辺に遊歩道をつけてもらえるのなら、建物を造りたいという企業はあるかもしれない。行政と一体となって取り組む必要がある。(川崎敏委員)
- その条件付けは行政でできる。さらに、企業からの要望を聞くことができるのがサウンディング調査だ。(松崎係長)
- 今回のサウンディング調査はそこまで細かな意見をもらうのか。(小原委員長)
- 門戸は開いておく。本委員会とは全く合致しない提案がされる可能性もあるが、「それは私た

ちとは合致しない」で済む話だ。私たちのみで市場性を評価できないため、入口は広くとる。(松崎係長)

- ➔ 茨城町の涸沼の活性化計画において、全く同じ手法をとろうと試したことがある。涸沼を県央から切り離し、霞ヶ浦と北浦の3つでラムサールから世界遺産へとといった取組みだ。内水面の歴史地区とし、複合遺産を目指せば、レンコンテーマパークや道の駅を含め、広い部分で「あなたの企業ではどう拠点を造るか」といったことを思い描いていた。これより、さらに具体的に踏み込む場合があるということか。(小原委員長)
- ➔ 提案によってはそうなる。前回からサウンディング調査に議論が向かいがちだが、計画で描けない部分をどう表現するかに対する策であり、一部分の話をしている。「できることからやる」といったソフト面が一番大事だ。ハード整備を受けて「それがあれば、地区として何ができる」や、「提案がないのならば、どういった輝きが必要か」といった次の段階に進める。(松崎係長)
- サウンディング調査には費用が発生するのか。手を挙げる企業はあるのか。(川崎敏委員)
- ➔ 費用は発生しない。応ずる企業については、やってみないと分からない。(松崎係長)
- ➔ いかに私たちが魅力的なパース図を作れるかによるのだろう。ひたちなか・大洗地区のリゾート構想に村松が入っている中、可能性が高いことを示せば、ハード整備ものってくるかもしれない。パース図が単なる鳥瞰図にならないように、村松地区ならではの景観等をうまく映し、地域としての景観の良さや資源を強調していただけるといい。(小原委員長)
- ➔ 駅からドローンを飛ばして、撮影しないと。五反田線の整備も必要だろう。(川崎敏委員)
- ➔ ドローンは賛成だが、パース図は絵だ。村松地区のチャーミングな科学や歴史といった要素が絵では見えづらい。ARなどを活用しないと訴える力がない。(坏委員)
- ➔ 捕捉資料の活用や現在と未来を比較しながら提示するのはありかもしれない。高萩市で先日、市勢要覧を作成するためのドローン撮影を民間企業にお願いしたが、結構な金額を要した。やるならば、早急に詰める必要がある。(小原委員長)
- ➔ 検討の余地はあるが、パース図とは別の話かと思う。どういった手法で、どういう撮影ができるかは一度検討させていただきたい。(佐藤課長)
- 資料1のスポット図内容(案)について、このような内容で進めて問題ないかについてご意見をいただきたい。(照沼主事)
- ➔ 絵と説明書きはセットとなるのか。絵だと科学の要素はどこになるか、説明書きがないと分からない。(坏委員)
- ➔ 絵のみを描く予定だが、委託先との協議によって、絵に文字を重ねることは可能だろう。(照沼主事)
- ➔ パース図にチャーミングなポイントを全て入れることが大切だ。言葉が入らないと、技術などは表現できない。(坏委員)
- ➔ 2次元では、絵に文字で捕捉することが限界だ。空撮なども取り入れるのならば、パース図ではなく、(村松地区の)PRとして別に考えていく必要があるかと思う。(照沼主事)
- 「大神宮・虚空蔵堂エリア」に『にぎわう宿通り』とあるが、宿通りの住人としてはどうなのだろう。それよりも、大神宮・虚空蔵堂への国道245号からのアクセスなどの話が中心だったのではないだろうか。(川亦委員)
- ➔ 参道のにぎわいについてはご意見をいただいていた。(照沼主事)
- ➔ 幼保跡地からの導線として宿の仲通りににぎわいをもたらす、土産屋などのにぎわいづくりも提案できる考え方ではないだろうか。(川崎敏委員)
- ➔ そこにスポットを当てるのがもったいないと感じた。駐車場は近場の方がいいという話もあっ

たかと思う。(川亦委員)

- 笠間市なども参道を活用している。海浜公園に相当数の人が訪れる中、10分程度の距離を観光バスで引っ張ることができればいい。阿漕ヶ浦に駐車場が整備される。その場所を観光バスの待機所にしてピストン輸送ができれば、大型バスを引っ張れる。店ができ、そういう人たちに滞留してもらえることは大事ではないか。元は、宿場町・門前町であったので、本来であれば町並み保存の観点があってもよかったのだろう。(久賀委員)
- 阿漕ヶ浦公園周辺の駐車場整備については、公園敷地に村道が入り込んでいるので、国体後となるが、まず、村道の整備を進める。それに合わせて、駐車場を整備する予定だ。幼保跡地については、国道側に碎石敷の駐車場を整備し、旧宿幼稚園の方は、自治会と共にどうしていくか考えていく。(河西課長)
- 幼保跡地とさわやかトイレでは、500mほどの差だ。(佐藤課長)
- 施設などがあれば500mはすぐだ。逆に言えば、そのぐらい魅力的なものがないといけないのだろう。(川亦委員)
- いつごろ駐車場を整備する予定なのか。(原委員)
- 今年度中に設計し、来年度工事する予定だ。(河西課長)
- 阿漕ヶ浦公園の駐車場も利用できる。幼保跡地のみでなく、拠点となる駐車場は必要だが、実現できるところから最大限利用する。極端に言えば、阿漕ヶ浦公園の入口一帯を買収し、イベント会場にすることは可能だ。(久賀委員)
- そうすると、宿通りピンポイントではないパース図の方がいいのではないのか。宿通りを含めた外部からの導線もあった方がいい。(川亦委員)
- 引きの絵となると、エリア別の俯瞰図と重複するので悩ましい。(照沼主事)
- パース図は将来像なので、宿通りのにぎわいを描くと、既存の民家などと矛盾が生じる。(安尾委員)
- イメージが統一されずに議論を行うと收拾がつかないので、とりまとめさせていただくが、ひとまず、事務局案で作成いただき、次回、それを元に議論をしていただきたい。(小原委員長)
- 私が言いたかったのは、パース図には宿通りよりも、滞留施設の雰囲気表現の方がイメージしやすい。個人宅が並ぶところにカフェを提案するよりも、「滞留施設がここにあれば、もっとにぎわう」とした方がこれまでの議論に沿うと思う。(川亦委員)

## (2) (仮称) 村松地区周辺地域活性化計画素案について ※資料2について照沼主事より説明

- 7頁のコンセプトについて、並列することは問題ないが、もっと目立たせた方がいい。また、静かな住環境を表す写真があると、“住んでみたい”につながるのでは。これまでの村松の住環境を象徴するような写真があれば、入れ込んでほしい。本計画は単なる観光振興計画ではないことが伝わるだろう。(小原委員長)
- 7頁のコンセプトについて、「」は不要ではないか。一方で、『』はデザイン的にそのまま使ってほしい。(川亦委員)
- 15頁、「阿漕ヶ浦」が「阿古木」だったとは、昔は「浦(入り江)」ではなかったのか。(川崎道委員)
- 昔は海につながっていたことに間違いはない。誤解しやすい表現なので改めたい。(照沼主事)
- 「阿漕」が「阿古木」なのだろう。村史などと整合性をとりつつ、書きぶりは検討していただきたい。(小原委員長)
- 大神宮・虚空蔵堂エリアについて、十三参りなどで門前がにぎわう写真を入れてほしい。(川

崎道委員)

- ARの活用が主な取組みに入っていないのではないか。(川亦委員)
- ➔ ARを取組みに入れなかったのは、10年の計画期間中に、デバイスなどが変化する懸念があったためだ。また、歴史を活用した取組みと謳えば、ARは紐づけられる。(照沼主事)
- ➔ AR・VRはデバイスではない。デバイスはホログラムなどになる。(坪委員)
- 主な取組みに、サイクリングの活用は入れないのか。(川亦委員)
- 19頁、「真崎古墳群行灯まつり」の「群」は不要だ。(安尾委員)
- 9頁の赤字部分、(1)～(6)の末文が「…取り組むこととします」で統一されているので、(7)も統一した方がいい。(安尾委員)
- 計画の策定時期によるが、15頁「ホッケー競技の開催が決定しており」の表現は時間軸に注意する必要がある。(安尾委員)
- 全体を通して、「積極的に」などの形容詞は、定性的な表現に不要だろう。(安尾委員)

### (3) その他 (大空マルシェ in 正月について/川崎敏委員より提案)

- ・本委員会の提案として、試験的にお正月(1月3日ごろ)に大空マルシェを開催したい。
- ・通行止め(一方通行)の期間、的屋さんが出ていない宮前橋の辺りに出店できるといい。
- ・警察との協議、駐車場の確保、住民への協力依頼等、やるべきことはあるが、1年で1番集客力があるこの時期に開催したい。今回成功すれば、次につながる。
- ・出店者については、観光協会で大空マルシェの出店者に呼びかけることはできる。
- ・大神宮、虚空蔵堂にはすでに打診済みであり、委員会の了承を得られれば、本取組みを進めたい。

- 塀の前、片側にテントを張る程度ならば、住民も了承しやすいだろう(川亦委員)
- 今回の提案は、委員の皆さんに協力(事務など)を依頼するものではない。事務局や観光協会が動く。ここではやるかどうかだけ決め、ぜひ、周囲にPRしていただきたい。(川崎敏委員)
- ➔ せっかくなので、やってみた方がいい。(久賀委員)
- ➔ 事務局としても、計画を進める上で本委員会がアクションを起こすことは非常に効果的だと考えている。(佐藤課長)
- 地域としては、正月の渋滞を何とかしたいという思いがある。虚空蔵堂で幼保跡地を借用してできないか。行政から駐車場を用意するような働きかけすることは難しいだろう。(久賀委員)
- ➔ 幼保跡地には駐車用の枠がない。また警備の問題があるが、正月は人手不足だ。例えば、暫定的に旧宿幼稚園の方を砂利敷きの駐車場にできないか。(原委員)
- ➔ 仮に砂利を敷いてもすぐに現状に戻す必要があるので、現実的ではないだろう。また、幼保跡地の使用申請を本委員会として出すのは難しい。(佐藤課長)
- ➔ 時間が限られているので、やり方については、事務局にお任せすることとし、お正月の大空マルシェを実施することについて反対意見はないか。本委員会としては実施に賛同するということがよろしいか。(小原委員長)
- ➔ 了承。(一同)

## 4 閉会 (佐藤企画経営課長)

(以上)